

【氏名】窪崎 喜方

【所属大学院】（助成決定時）

九州大学大学院芸術工学研究院

【研究題目】

「南太平洋の文化遺産とマネジメントに関する研究」

フィジー諸島共和国・旧首都レブカの事例

【研究の目的】

フィジー諸島共和国・レブカは周囲約 50km のオバラウ島という小さな島に位置している。この町には貴重な町並み遺産を主体とした文化遺産が残されており、現在世界文化遺産暫定リストに登録されている。しかし町並みに関する学術調査が行われておらず、その重要性の十分な把握がなされていないため、町並みの保存・継承を図ることに多くの問題を抱えている。一方近年世界各地に残る文化遺産への関心が高まり、観光客が集中する事例が報告されている。レブカは今後世界遺産登録がなされるなど状況の変化により、急激な観光地化が進み文化遺産の保全・管理がうまくいなくなる危険性がある。

そのため南太平洋の文化遺産であるフィジー諸島共和国・旧首都レブカの町並み及び文化的景観としてのオバラウ島を対象として、日本の伝統的建造物群保存地区制度的な仕組みの導入を通じ、その価値の評価・維持・形成を行う。

【研究の内容・方法】

文化遺産の価値の評価・維持・形成

「文化遺産としてのレブカの町」及び「文化的景観としてのオバラウ島」の価値の評価・維持・形成に取り組む。

1. 両価値を組み立てている空間構造・都市構造の歴史を明らかにする。町並みについては既往研究文献の収集と文献史料・絵図史料・地図資料の調査を通して、町並みの成立と展開の過程を場所と空間に即しつつ跡付ける。
2. 両価値を構成している建造物や自然物を明らかにする。建造物については来歴・配置・平面・断面・痕跡の採取と実測による個別建築の履歴の把握を通して、町並みの建築的特色を解明する。
3. 景観構成を明らかにする。景観要素の分布調査と建造物立面の採取・実測・三次元モデル化を通して、町並みの景観構成の現況を把握し、町並み保存の課題を抽出する。オバラウ島全体に関する景観要素についても抽出し、その残存状況や保存状況を明らかにする。
4. 両価値の地域社会との関わりについて明らかにする。文献史料・ヒアリング調査により町並み保存と街づくりの経緯について整理する。

5. 両価値の中央政府との関わりについて明らかにする。文献史料・ヒアリング調査により現在までの経緯について整理する。
6. 両価値を持続的に保存・保全する手法やシステムの構想・立案を行う。上記の結果について総合的な検討を加え、町並みの固有性を具体的に即して把握し、基本方針と枠組みを提示する。

【結論・考察】

1. 空間構造・都市構造

歴史的建造物の用途と分布の分類から、店舗兼住居については52件がビーチストリート地区に集中しており、これらの店舗群は連続した軒と歩廊を持っているため、通りに面して開放性を持って存在することが明らかとなった。

2. 町並みの建築的特色

ビーチストリート地区における伝統的建築を立面形式の違いに着目して分析した結果、以下の三種類の特色が明らかになった。

(1) 平屋型ショップハウス型 (2) 二階建てショップハウス型 (3) 倉庫型

3. 景観構成

景観要素の抽出調査よりレブカ全域に数多くの景観要素が分布していることが明らかとなり、その特徴や分布、残存状況を掴むことができた。

4. 地域社会との関わり

町並み保存と街づくりの経緯について、特に近年の動きにつきにその詳細が明らかとなった。

5. 中央政府との関わり

町並み保存と法的な対応について、特に近年の動きにつきにその詳細が明らかとなった。

6. 保存・保全する手法やシステムの構想・立案

上記結果の検討より、日本の伝統的建造物群保存地区制度的な仕組みを援用した包括的な計画立案を進めている。